

# 「生物学オリンピック」のための指導(地学オリンピックの指導含む)

理科(生物) 繁戸 克彦

## 1.1. 研究開発・実践に関する基本情報

時期/年組(学年毎参加数)	2021年4月～8月(生物学オリンピック)1年15人 2年7人																
	1a	1b	1c	2a	2b	3a	3b	4a	4b	5a	5b	6a	6b	7a	7b	8a	8b
本年度当初の仮説	◎			◎		◎			◎								
本年度の自己評価	=			=		=			=								
次のねらい(新仮説)																	
関連file	成果:日本生物学オリンピック2021本選鶴岡大会受賞者.pdf																

## 1.2. 研究開発の経緯と本年度当初の課題

一昨年度はSSH主対象である本校総合理学科3年生が初めて日本生物学オリンピック総合成績1位を獲得した。毎年ではないが、例年、本選出場者を排出し、メダル受賞者も数名出ている。過去問を中心とした事前講習会を連続して行い、予選通過を目指す。本選出場が決まれば、夏期休業中に実験講習、レポート作成を行う。

## 1.3. 研究開発実践

本年は新型コロナウイルスのため生物学オリンピックはオンライン実施となり、新型コロナウイルスの影響で、放課後の活動が制限されたことから、本年度は「生物学オリンピック」のための指導という形での講習会を開催することができず、過去の問題を配布しその解説を配布したのみにとどまった。このような中、1年生が本選全国大会に出場し、敢闘賞を受賞した。

また、地学オリンピックは本校始め県下の公立高校では地学の授業が実施されていないこともあり、今年度1月に本校重点事業で地学の専門教員による地学オリンピックに向けた講座「地学トレセン」の実施し本校から4名が参加した。来年度の地学オリンピックでの成果を期待している。

## 1.4. 「8つの力の育成」に関する自己評価と本年度の取組から見えてきた今後の課題

新型コロナウイルスの影響で、放課後の活動が制限され、希望者対象の講習会を持つことができず、十分な事業が展開できなかったため、当初育成が見込まれた力の検証ができなかった。本年度はSSH通信を通じて、参加希望者を募り団体申し込みができ、参加者がコロナ前の水準には達していないが、意欲的なものが参加した。